

「浦河の特別栽培米」で地産地消を推進

～小さい産地だからできた特別栽培米の付加価値化の取り組み～

- ◆活動年次：平成25年度～平成27年度
- ◆対象：浦河町産米改良協会「浦河の特別栽培米」生産部会 10戸

1 課題の背景

浦河町では平成21年から特色のある米作りとして特別栽培米の取組が試みられたが、生産・販売面の不安から取組が停滞していた。
 平成25年から「特別栽培米を町民に食べてもらい、地域の稲作を維持する」ことを目指し、関係機関が力をあわせて特別栽培米取組農家の拡大と町内販売の促進を図った。

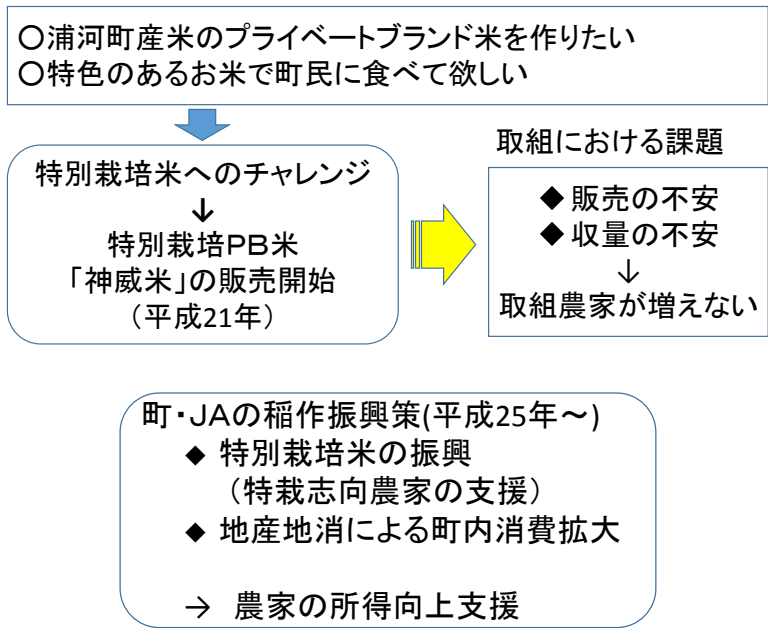


写真1 特別栽培米のPRパンフ

2 活動の経過

特別栽培農家の拡大に向けてはJAと連携し、展示ほを設置し収量・品質を調査した。農家に対し勉強会等で特別栽培の啓発を行った。取組農家の増加に合わせて、組織化の提案を行った。また、役場を中心に関係機関が連携して町内イベントに積極的に参加して特別栽培米のPRと販売推進を実施。

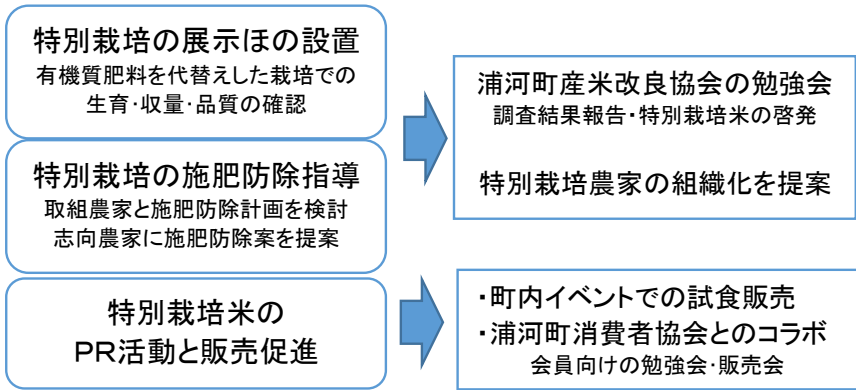


写真2 農業祭りでの販売

3 活動の成果

○実証ほの成果

- ・3カ年の調査から特別栽培の収量は慣行栽培とほぼ同等（図1）
- ・取組農家も満足 of 収量
「生育も順調で目標収量以上を確保。病虫害も問題なし」→ 農家の不安解消

○特別栽培農家の増加

- ・1戸の農家からは始まった特別栽培
平成27年には10戸に拡大（図2）
（JA出荷農家戸数13戸中10戸が取り組む）
- ・平成27年に産米改良協会の下部組織として
「浦河の特別栽培米」生産部会設立

○認知度向上！販売も順調に拡大。

- ・町内での認知度も上がり、平成26年産米では販売予定量が7月で完売。平成27年産米は320俵と大幅に販売拡大を予定（図3）。

○特別栽培米の経済効果

- ・「浦河の特別栽培米」の生産者精算金は約1万4千円/俵。一般米に比べ10a当の販売金額は2.7万円アップ（図4）。

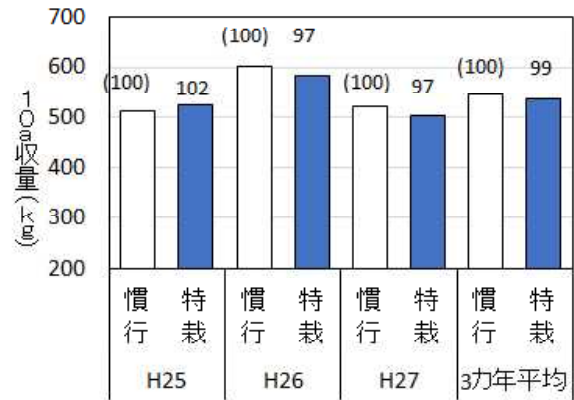


図1 実証展示ほの収量

図内数値は各年の慣行を100とした場合の特別栽培の比率
（平成25年:特栽1戸、平成26年:特栽2戸平均、平成27年:特栽1戸）



図2 特別栽培米農家の推移

※JA出荷農家数。平成22年は試験栽培面積を含む

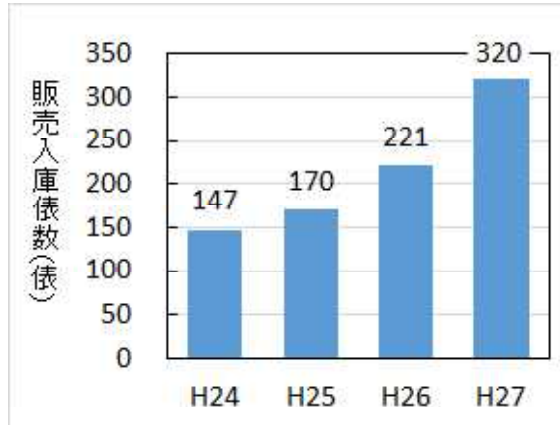


図3 「浦河の特別栽培米」販売俵数

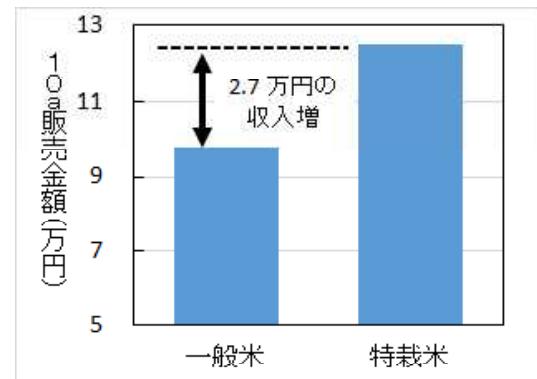


図4 特別栽培米による収入試算

（3カ年の展示圃収量を基に試算）

4 今後の課題

- 「浦河の特別栽培米」生産部会の活動充実
栽培技術の勉強会・消費拡大に向けたPR活動ふるさと納税の返礼品としての取扱
- 販売店舗の拡大
これまでAコープ、JA直売所だけの販売。平成27年から町内のコンビニエンスストアでの試験販売を開始。町内消費に向けた販売店舗数の拡大が課題。



写真3 コンビニエンスストアでの販売